光葉ワーキングクラブメールマガジン

＜2017年1月号＞　　118号　2017.01.10　配信

輝かしい新春を迎え皆様のご清福をお祈り申し上げます。
本年も光葉同窓会・光葉ワーキングネットワークをどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 新年挨拶　　会長 比護和子

同窓生の皆様、あけましておめでとうございます。
2017年は、心豊かで穏やかな一年になりますようお祈り申し上げます。
昨年は地震、台風など日本列島は大きな災害に見舞われました。同窓生にも災害に見舞われた方が多くいらっしゃいます。思うことの万分の一にも届かないのですが、被災された同窓生にこころ寄り添い、一日も早くお元気になられますようお祈りいたしております。
同窓生の皆様には熊本地震義援金のご協力をいただきましてありがとうございました。今後、この想いと「こころ」を大切にしてまいりたいと思います。
お届けするメールマガジンも118号となりました。同窓生の活躍や、働く女性を応援する活動や大学の情報など、新しい、そして豊かな話題をお届けしてまいります。
女性が安心して働くことができる社会こそが、真に女性が輝ける社会であると思うのです。
しかし、昨年、子供を保育園に入園させることができなかった母親の叫びの記事を見て、とてもさみしく思いました。女性が安心して働ける社会、女性が心強く生活できる社会は遠いものなのでしょうか。ワーキングネットワークの活動が少しでも働く女性の力になれればと思っております。

メールマガジンの登録者は 1,060 名となりました。
卒業生の皆様、一人でも多く「葉っぱ」となってくださいますようお願い申し上げます。そして社会で活躍されている多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。ワーキングにご参加の皆様、一人でも多くの方にお声がけをお願い申し上げます。

■ 同窓会だより

◆2016年12月18日、田部井淳子さん（昭和37年英米文学科卒、登山家）を送る会が、昭和女子大学グリーンホールで開かれました。
被災した東北の高校生の富士登山プロジェクトで、同年7月、富士山の元祖七合目（3010m）まで登って、頂上へ向かう高校生たちを励まし、見送ったのが長い登山人生の最後の登山となりました。
送る会には、国内外の山岳関係者、昭和女子大学・光葉同窓会員をはじめ、一般の献花者ら1,400名が訪れました。献花の際は、幼少期の写真や登頂映像などがスライドで流れ、田部井さんの強い意志と温かい人柄を偲びました。生前に交流のあった皇太子ご夫妻からはお花が届けられていました。また、昭和女子大学から名誉理事の称号が授与されました。

■キャリア支援センターから「社会人メンター募集」のお知らせです。
学生と信頼できる社会人が直接出会い、卒業後のキャリアプランやライフスタイルについて相談できる機会を大学が提供する制度です。　皆様、ぜひ後輩のために応募してください。

◆2017年度春期 社会人メンター募集のお知らせ◆

募集期間：2017年3月13日（月）～3月31日（金）
応募要件：原則3年以上の社会人経験のある女性
その他詳細につきましては、募集期間中に公開いたします募集要項をご参照ください。
応募方法：募集期間中、大学ホームページ（http://univ.swu.ac.jp/）の、「お知らせ／公開講座・イベント」欄にて、募集要項ならびに応募フォームをご案内いたします。
選考方法：書類審査のうえ、面談をさせていただきます。
○社会人メンターネットワークについては、下記ホームページをご参照ください。
http://dream.swu.ac.jp/recruitment

■広げよう光の葉

大栗　和子さん　　1955 年　短期大学部英文科卒（長崎県支部）

「61 年目に卒論に再会して」

今回夏休みの高校生の孫 2 人を伴って母校を訪れました。昭和女子大学の蔵書である近代文学叢書を拝見出来る機会を戴いたからです。

在学 2 年次の春、当時の理事長人見圓吉先生から卒論テーマとして「土肥春曙」の研究課題を提供されました。近代文学研究の一環として、名前も初めて何の予備知識もない人物の零からの出発でした。途方にくれ乍らも少しずつたぐり寄せながら、夏休みはあちこち資料集めにとび廻った思い出があります。

地方出身の未熟な一学生が右往左往しながら未知の分野の諸々を調べ学び、そのうち興味が湧き面白さとやり甲斐を感じながら、稚いながらも卒業論文を提出することが出来ました。これがルーツと云うか、いまだに市民劇場のサークルで長年新劇を観続けています。

61 年を経て今回光葉同窓会の比護会長のご案内のもと人見理事長の応接間（昭和学園記念室、人見記念講堂 2 階）の書棚に置かれた 76 巻の叢書、そしてその中の 1 冊 15 巻を手にした時の感動は一入でした。未熟な作品をより立派に校正され、よりち密に調べ上げられた年表にただただ感服し、立派な全集の中の一作品に入れて頂いたことに心からの感謝の思いでした。

近代文化研究所の田畑次長から抜刷本まで戴き、これからの私の余生の宝となりました。

又、本をめくって最初に目にしたのが恩師のお名前でした。太田三郎先生、木俣修先生、金子健二先生、内藤濯先生、笹澤美明先生・・。すばらしい先生方の講義風景が思い出され、短い 2 年間の大学生活でしたが充実した幸せな学生生活だったと認識を新に帰途につきました。

改めて親切に説明案内していただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

End